

高齢になったシロイワヤギの飼育管理について

○松野紫乃、桐生大輔
(横浜市立金沢動物園)

金沢動物園では、シロイワヤギ（雌、17歳、愛称：ペンケ）を飼育している。当該個体は現在、国内最高齢となった。高齢化に応じて行った様々な取組や課題について紹介する。

シロイワヤギは北アメリカからカナダにかけてそびえ立つロッキー山脈に生息している野生のヤギである。岩場という生息環境に特化した蹄をもつことと、大雪が降る地域のため白く長い毛に覆われていることが特徴であるが、横浜の気候の元では過去、熱射病と思われる症状により相次いで死亡した。そのため、熱射病対策として毎年毛刈りを行うとともに、夏の間は空調管理の出来る室内に収容して展示を行っている。

ここ数年の高齢化に伴い、特に足腰の衰えが顕著である。関節が固まってきてしまい日頃から歩き辛そうにしている。そのため、展示場に足場をなだらかにするスロープを施工した。餌には添加剤としてグルコサミンや関節炎の炎症を抑える効果が期待されるメチルサルフォニルメタンなどを配合したサプリメントを与えている。運動量が減ったことにより蹄が伸びてしまうため定期的に削蹄を行っている。

また、2018年3月から左前肢に蹄底潰瘍を患っており、回復に向けて試行錯誤しているが、未だ完治には至っていない。良い解決策を探るため、情報の収集に努めている。